

対談 吉



追悼 故 中野清一 名誉教授

本学名誉教授中野清一先生は、平成五年七月二日、八十八歳の生涯を閉じられました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

中野先生は、昭和四年九州帝国大学を御卒業後、小樽高等商業学校、満州国建国大学、横浜工業経営専門学校、横浜経済専門学校を経て、二十四年八月政経学部教授に着任され、四十年三月本学を退官されました。その後同年四月立命館大学産業社会学部教授、四十五年四月同大学産業社会学部特任教授となられ、五十年三月同大学を退職されました。

先生は、恩師である高田保馬教授の社会学理論を継承発展させ、その独創的な理論体系を「間柄科学としての社会学」として世に問われ、学界で高い評価を得られました。他方で先生は、被爆地広島にかかわる実証的研究を精力的に進められ、その成果を「原爆と広島」として体系的にまとめられました。また先生は、森滝市郎氏とともに「広島子供を守る会」を結成され、原爆孤児の救済に力を尽されるところにも、原水爆禁止運動を積極的に推進されました。

先生は、本学にあつては、その高邁な人格と該博な知識をもって幾多の有為な人材を育成されるところにも、政経学部長、評議員、附属図書館政経学部分館長などを歴任され、学内行政の面でも多大の貢献をなされました。また学外にあつては、日本社会学会評議員、経済社会学会理事などの要職を歴任され、社会学の発展に寄与されました。

政経学部（現法学部）の社会学講座に大きな足跡を遺されました中野先生のご冥福を、心よりお祈り申し上げます。

（法学部政治講座 小谷朋弘）

